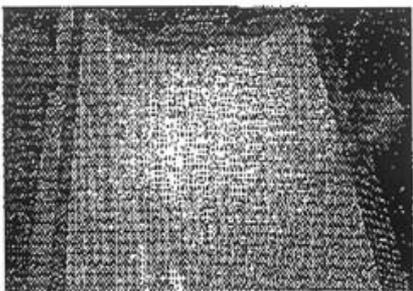


フィルム型UV光源

篠田プラズマ、医療向け

【神戸】篠田プラズマ（神戸市中央区、篠田博社長、078・302・1728）は14日、神戸

大学などと共同で、フィルム型の紫外線（UV）面光源（写真）を開発したと発表した。医療用として治療効果が高い波長のみに加え、UV発光が可能となり、まずは医療用として市場を開拓す



る。現在実用化を目指して研究を進める。

神戸大学のほか兵庫県立工業技術センター、産業用紫外線ランプ製造・販売のユメックス（兵庫県姫路市）と共同開発した。希土類元素のガドリニウムを用いたUV蛍光体に篠田プラズマの持つ、超大画面フィルム型ディスプレイに用いられるプラズマチューブアレイ（PTA）の技術を応用させた。

医療・産業用に多く用いられるUV光源では主に水銀ランプが使用されているが、水銀フリーの代替光源が求められていることに着目して開発し

た。開発試作フィルムは縦30センチ、横30センチ、厚さ0.7センチで、重量は約100グラム。UV発光強度

は1平方センチ当たり約2ワット。医療・産業用の幅広い分野での需要を見込む。

研究開発は経済産業省の2009年、10年度「地域イノベーション創出研究開発事業」として行われている。